

試行的評価の効果等に関するアンケート調査（案）

【全評価区分統合版】（ 大学等への送付時は、各評価区分ごとの分冊にして送付します。）

様式 1

大学評価・学位授与機構が行った試行的評価の方法及び効果等に関するアンケート調査

独立行政法人大学評価・学位授与機構（以下「機構」という。）では、これまで平成 12 年度から 3 回にわたり大学評価を試行的に行って参りましたが、このたび、機構外部の委員を中心とした「独立行政法人大学評価・学位授与機構試行的評価に関する検証委員会」を設置し、試行的評価の方法の適切性やその効果の検証を行うこととなりました。

本アンケートは、その検証作業の一環として、これまで評価直後に大学等に行ってきた自由記述方式の意見照会では把握できなかったご意見や、評価終了後の評価結果の利用状況等についてさらに情報を得るため、今後の評価事業の改善に資することを目的とするものです。具体的な評価方法についての質問もありますので、貴大学等（大学及び大学共同利用機関を含む。以下同じ。）において、試行的評価で中心的に作業された方、あるいはそれに準ずる方がご回答くださいますようお願い申し上げます。回答に際しましては、各回答者ご自身が評価に携わった経験からご回答ください。なお、回答される方が複数の評価に携わっておられた場合でも、以下に記された「回答対象の評価区分」での経験に限定してお答えください。

回答は **8月3日（火）** までにお願いたします。

なおまた、いただいた回答を上記以外の別の目的以外には使用しないこととはありません。また、選択式の質問については集計した結果のみを公表し、及び大学等名や回答者氏名等は公表しないことを申し添えます。

回答者ご自身について、以下にお答えください。

回答対象の評価区分	例：全学テーマ別評価「教養教育」	大学等名 (評価時)							
回答者氏名		性別	1.男	2.女	年齢	歳			
回答者の所属 (評価時の学部名等)		職名 (評価時)							
評価時の評価組織における役職 (例：評価委員会委員長)									
上記の回答対象の評価区分以外の評価経験 (自己評価書作成に携わったものに印を付けてください。)	【全学テーマ別評価】								
	1 教育サービス面における社会貢献		2 教養教育						
	3 研究活動面における社会との連携及び協力		4 国際的な連携及び交流活動						
	【分野別教育評価】								
1 理学系		2 医学系		3 工学系		4 法学系		5 教育学系	
6 人文学系		7 農学系		8 経済学系					
【分野別研究評価】									
1 理学系		2 医学系		3 工学系		4 法学系		5 教育学系	
6 人文学系		7 農学系		8 経済学系					
【分野別教育・研究評価】									
1 総合科学									
外部における大学評価の経験 (委員等の経験のあるものに印を付けてください。)	1 大学評価・学位授与機構の大学評価委員会委員								
									2 大学評価・学位授与機構の各種評価の専門委員会委員（評価区分：_____）
									3 大学評価・学位授与機構の各種評価の評価員（評価区分：_____）
									4 大学基準協会・JABEE 等の大学評価機関の委員等
									5 他大学、研究機関等の外部評価委員等

選択式の回答は以下のように、設問の右側にある回答欄の空欄部分にご記入いただくか、空欄の左にある枠内の該当する数字に 印を付けてください。

【回答例】

	強く そう思う (5)	どちらとも 言えない (3)	全くそう 思わない (1)						
回答例は、適切であった。	-----		5	4	3	2	1	3
回答例は、適切であった。	-----		5	4	3	2	1	

参考：パソコンで回答を入力する場合の丸付数字

1 . 試行的評価の基本的な枠組みについて

機構の評価の目的（大学等の改善、大学等の活動の社会への説明）に照らして、以下の内容について5段階（5：強くそう思う ~ 3：どちらとも言えない ~ 1：全くそう思わない）でお答えください。内容を知らない等の理由で答えられない場合は、空欄としてください。

	強く そう思う (5)	どちらとも 言えない (3)	全くそう 思わない (1)						
大学等の目的及び目標に即して評価を行うという設計は、									
-1	大学等の改善のために、適切であった。	-----		5	4	3	2	1	
-2	大学等の活動の社会への説明のために、適切であった。	-----		5	4	3	2	1	

大学等の自己評価に基づいて評価を行うという設計は、									
-1	大学等の改善のために、適切であった。	-----		5	4	3	2	1	
-2	大学等の活動の社会への説明のために、適切であった。	-----		5	4	3	2	1	

全学テーマ別評価、分野別教育評価、分野別研究評価と区分して評価を実施するという設計は、									
-1	大学等の改善のために、適切であった。	-----		5	4	3	2	1	
-2	大学等の活動の社会への説明のために、適切であった。	-----		5	4	3	2	1	

【総合科学】教育評価と研究評価を同時に実施するという設計は、									
-1	大学等の改善のために、適切であった。	-----		5	4	3	2	1	
-2	大学等の活動の社会への説明のために、適切であった。	-----		5	4	3	2	1	

【全学テーマのみ】テーマ別評価を大学等を単位として行うという設計は、									
-1	大学等の改善のために、適切であった。	-----		5	4	3	2	1	
-2	大学等の活動の社会への説明のために、適切であった。	-----		5	4	3	2	1	

強く どちらとも 全くそう
 そう思う 言えない 思わない
 (5) (3) (1)

【教育評価のみ】教育評価を学部及び研究科という単位として行うという設計は、

-1 大学等の改善のために、適切であった。 -----	5	4	3	2	1	
-2 大学等の活動の社会への説明のために、適切であった。 -----	5	4	3	2	1	

【研究評価のみ】研究評価を学部及び研究科、附置研究所、大学共同利用機関全体（回答者の所属に該当するものでお答えください。）という単位で行うという設計は、

-1 大学等の改善のために、適切であった。 -----	5	4	3	2	1	
-2 大学等の活動の社会への説明のために、適切であった。 -----	5	4	3	2	1	

大学の教員及び有識者から構成された委員会で評価を行うという設計は、

-1 大学等の改善のために、適切であった。 -----	5	4	3	2	1	
-2 大学等の活動の社会への説明のために、適切であった。 -----	5	4	3	2	1	

評価報告書を社会に広く公表するという設計は、

-1 大学等の改善のために、適切であった。 -----	5	4	3	2	1	
-2 大学等の活動の社会への説明のために、適切であった。 -----	5	4	3	2	1	

2. 大学等における評価の作業量・作業時間について

(1) 評価作業の負担は大学等全体として / 当該部局全体としてどの程度でしたか。以下の内容について 5 段階 (5 : 負担がとても大きい ~ 3 : どちらとも言えない ~ 1 : 負担は大きくない) でお答えください。答えられない場合は、空欄としてください。

	負担が とても大きい (5)	どちらとも 言えない (3)	負担は 大きくない (1)			
自己評価書の作成のための作業量 -----	5	4	3	2	1	
【研究評価のみ】研究活動判定票の作成及び代表的研究業績の提出 --	5	4	3	2	1	
【教育評価 H14 のみ】基礎資料等の事前提出への対応 -----	5	4	3	2	1	
【国際連携のみ】書面調査段階での確認事項等 (9 月) への対応 ----	5	4	3	2	1	
訪問調査又はヒアリングへの対応 -----	5	4	3	2	1	
意見の申立てへの対応 -----	5	4	3	2	1	

(2) 評価作業の負担に関して以下のことを感じられましたか。5 段階 (5 : 強くそう思う ~ 3 : どちらとも言えない ~ 1 : 全くそう思わない) でお答えください。答えられない場合は、空欄としてください。

	強く そう思う (5)	どちらとも 言えない (3)	全くそう 思わない (1)			
評価作業は効率的に行われた。 -----	5	4	3	2	1	
評価作業の実施により、自大学等全体 / 部局全体の教育・研究活動に 支障が生じた。 -----	5	4	3	2	1	
評価作業の負担が少数の人員に集中していた。 -----	5	4	3	2	1	
評価作業に費やした労力は、						
-1 大学等の改善のためには妥当なものであった。 -----	5	4	3	2	1	
-2 大学等の活動の社会への説明のためには妥当なものであった。 ----	5	4	3	2	1	

(3) 評価において、以下の作業の期間は十分に設定されていましたか。5 段階 (5 : 十分であった ~ 3 : どちらとも言えない ~ 1 : 十分でなかった) でお答えください。答えられない場合は、空欄としてください。

	十分 であった (5)	どちらとも 言えない (3)	十分で なかった (1)			
自己評価実施期間 -----	5	4	3	2	1	
訪問調査又はヒアリングへの準備期間 -----	5	4	3	2	1	
意見の申立て期間 -----	5	4	3	2	1	

3 . 試行的評価で実施した方法について

以下の内容について 5 段階 (5 : 強くそう思う ~ 3 : どちらとも言えない ~ 1 : 全くそう思わない) でお答えください。内容を知らない等の理由で答えられない場合は、空欄としてください。

(1) 自己評価の方法について

強く
そう思う
(5)

どちらとも
言えない
(3)

全くそう
思わない
(1)

機構が行った自己評価の説明 (自己評価実施要項や説明会など) はわかりやすかった。 -----

5	4	3	2	1	
5	4	3	2	1	

機構の評価の目的は、自大学等内 / 部局内に浸透していた。 -----

【教育・研究評価のみ (理学系・医学系は項目のみ)】「評価項目」や「要素」等の構造のもとで自己評価を行う方法は適切であった。 -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

【全学テーマのみ】「評価項目」や「観点」等の構造のもとで自己評価を行う方法は適切であった。 -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

【教育・研究評価のみ (理学系・医学系は項目のみ)】機構が「評価項目」や「要素」を設定するという方法は適切であった。 -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

【全学テーマのみ】機構が「評価項目」を設定するという方法は適切であった。 -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

設定されていた「評価項目」は適切なものであった。 -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

【教育・研究評価のみ (理学系・医学系は除く)】設定されていた「要素」は適切なものであった。 -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

「観点」を大学等自身が設定して評価を行うという方法は適切であった。 -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

【全学テーマ：教育サービス、分野別：理学系・医学系は除く】一般的な「観点」を機構が例示するという方法は適切であった。 -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

【全学テーマ：教育サービス、分野別：理学系・医学系は除く】例示された「観点」は適切なものであった。 -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

【全学テーマ：国際連携・研究連携のみ】活動 (研究連携は、「取組」) を分類して評価を行うという方法は適切であった。 -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

【全学テーマ：国際連携のみ】活動の分類を機構が例示するという方法は適切であった。 -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

総じて、自己評価の方法は適切であった。 -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

自己評価書に、自大学等 / 部局の状況や長所を的確に表現できた。 ---

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

自己評価を行うことで、自大学等 / 部局の課題を把握することができた。 -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

自己評価を行うことで、自大学等 / 部局の目指す方向性を構成員の間で共有できた。 -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

(2) 機構による評価の方法について

強く
そう思う
(5)

どちらとも
言えない
(3)

全くそう
思わない
(1)

——機構が行った評価は、自大学等の目的及び目標に即して行われた。—— 5 4 3 2 1

【教育・研究評価のみ】評価の方法は当該学問分野の特徴に鑑みて、適切なものであった。-----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

【研究評価のみ】「研究内容及び水準」並びに「研究の社会（社会・経済・文化）的効果」の評価において、各教員（総合科学では各プロジェクト）が提出した代表的研究活動業績等の業績資料を基に判定作業を行うという方法は適切であった。-----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

【研究評価のみ】「研究内容及び水準」並びに「研究の社会（社会・経済・文化）的効果」の評価において、機構が設定した研究領域の区分は適切であった。-----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

【研究評価のみ】「研究内容及び水準」並びに「研究の社会（社会・経済・文化）的効果」の評価において、判定結果に基づいて教員の割合（総合科学ではプロジェクトの割合）を研究領域ごとに示すという方法は適切であった。-----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

根拠資料に基づいて評価することは、評価の公正性に照らして適切であった。-----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

機構からの根拠資料の追加要求の内容や量は適切であった。-----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

訪問調査又はヒアリングでは、自大学等からの情報提供や意見交換が有効に行われた。-----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

機構においてどのように評価が行われるかは、十分に情報提供されていた。-----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

評価報告書に、評価項目ごとの水準判断を段階別に記述する方法は適切であった。-----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

評価報告書に、特に優れた点及び改善すべき点を記述するという方法は適切であった。-----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

総じて、機構による評価の方法は適切であった。-----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

(3) 機構側の評価実施体制について

強く どちらとも 全くそう
 そう思う 言えない 思わない
 (5) (3) (1)

機構の専門委員会の委員構成は、国・公・私立大学や有識者の割合並びに専門性等からみて、適切であった。 -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

機構の専門委員会委員や評価員を、国立大学協会等の各種関係団体からの推薦を基に選考する方法は、適切であった。 -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

評価者は十分研修されていた。 -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

評価の過程において、機構側の事務的対応（質問への回答や事務連絡など）は適切であった。 -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

4 . 機構による評価結果について

以下の内容について 5 段階（5：強くそう思う ～ 3：どちらとも言えない ～ 1：全くそう思わない）でお答えください。内容を知らない等の理由で答えられない場合は、空欄としてください。

（1）評価結果の内容について

	強く そう思う (5)	どちらとも 言えない (3)	全くそう 思わない (1)			
評価結果は自大学等の目的及び目標に即したものであった。 -----	5	4	3	2	1	
評価結果は自大学等の実態に即したものであった。 -----	5	4	3	2	1	
評価結果は自大学等の規模や制約（資源・制度など）を考慮したものであった。 -----	5	4	3	2	1	
評価結果により、自大学等以外の者からの新たな視点が得られた。 --	5	4	3	2	1	
【研究評価のみ】機構による研究水準の判定結果は適切であった。 --	5	4	3	2	1	
【研究評価のみ】機構による研究の社会的効果の判定結果は適切であった。 -----	5	4	3	2	1	
総じて、機構による評価報告書の記述は適切であった。 -----	5	4	3	2	1	
総じて、機構による評価の水準判断結果は適切であった。 -----	5	4	3	2	1	
意見の申立てをした場合に、機構の「申立てへの対応」の内容は適切であった。 -----	5	4	3	2	1	
評価結果のマスメディアにおける取り上げ方は適切であった。 -----	5	4	3	2	1	

（2）評価による活動状況等の把握について

	強く そう思う (5)	どちらとも 言えない (3)	全くそう 思わない (1)			
自大学等の活動について多面的に把握することができた。 -----	5	4	3	2	1	
【総合科学については、以下 3 つを教育活動と研究活動の両方で質問する】当該活動の適切性を把握することができた。 -----	5	4	3	2	1	
当該活動の目標の達成度合いを把握することができた。 -----	5	4	3	2	1	
当該活動の今後の課題を把握することができた。 -----	5	4	3	2	1	
【研究評価のみ】自大学等の研究内容やその水準を把握することができた。 -----	5	4	3	2	1	
【研究評価のみ】自大学等の研究の社会（社会・経済・文化）的效果の状況を把握することができた。 -----	5	4	3	2	1	
【総合科学のみ】教育評価と研究評価を一度に行うことにより、組織の全体像を把握することができた。 -----	5	4	3	2	1	

5 . 評価結果の活用について【全学テーマのアンケート用紙の場合】

5 . 1 評価結果の貴大学等における具体的利用について

(1) 評価の実施以降に、評価報告書の内容にかかわらず、評価結果にかかわらず、当該テーマに関わる活動の質の向上のために何らかの変更・改善を行ったもの、あるいは予定しているものがありますか。ある場合に、主要なものについて簡単にご記述ください。

また、その変更・改善の際に機構の評価（機構の評価報告書の内容だけでなく、貴大学等による自己評価書の作成や、評価の過程で得られた知見を含む。）はどの程度参考になりましたか。5段階（5：非常に参考となった ~ 3：どちらとも言えない ~ 1：全く参考とならなかった）でお答えください。

非常に どちらとも 全く参考と
参考となった 言えない ならなかった
(5) (3) (1)

記入例（教養教育評価の例）： 教養教育の科目構成を主題別に変更し、来年度入学生から実施予定である。	5	4	3	2	1	
実施体制や改善のための体制に関すること						
	5	4	3	2	1	
	5	4	3	2	1	
	5	4	3	2	1	
実施方法や実施内容に関すること						
	5	4	3	2	1	
	5	4	3	2	1	
	5	4	3	2	1	

必要に応じて、枠の数を増やしたり、縦幅を大きくしたりしてください。

（本設問は、機構の評価がどの程度大学等の改善の参考になったかを調査するものであり、貴大学等の変更・改善の取組状況自体を追調査することを目的とするものではありません。）

5 . 評価結果の活用について【教育評価のアンケート用紙の場合】

5 . 1 評価結果の貴大学等における具体的利用について

(1) 評価の実施以降に、評価報告書の内容にかかわらず、評価結果にかかわらず、教育活動の質の向上のために何らかの変更・改善を行ったもの、あるいは予定しているものがありますか。
ある場合に、主要なものについて簡単にご記述ください。

また、その変更・改善の際に機構の評価（機構の評価報告書の内容だけでなく、貴大学等による自己評価書の作成や、評価の過程で得られた知見を含む。）はどの程度参考になりましたか。
5段階（5：非常に参考となった ~ 3：どちらとも言えない ~ 1：全く参考とならなかった）
でお答えください。

非常に どちらとも 全く参考と
参考となった 言えない ならなかった
(5) (3) (1)

記入例： 学生による授業評価を学部全体で実施し始め、その結果を教員が授業改善に用いている。	5	4	3	2	1	
教育の実施体制や改善のための体制に関すること						
	5	4	3	2	1	
	5	4	3	2	1	
	5	4	3	2	1	
教育内容、教育方法や学習支援方法に関すること						
	5	4	3	2	1	
	5	4	3	2	1	
	5	4	3	2	1	

必要に応じて、枠の数を増やしたり、縦幅を大きくしたりしてください。

（本設問は、機構の評価がどの程度大学等の改善の参考になったかを調査するものであり、貴大学等の変更・改善の取組状況自体を追調査することを目的とするものではありません。）

5 . 評価結果の活用について【研究評価のアンケート用紙の場合】

5 . 1 評価結果の貴大学等における具体的利用について

(1) 評価の実施以降に、評価報告書の内容にかかわらず、評価結果にかかわらず、研究活動の質の向上のために何らかの変更・改善を行ったもの、あるいは予定しているものがありますか。ある場合に、主要なものについて簡単にご記述ください。

また、その変更・改善の際に機構の評価（機構の評価報告書の内容だけでなく、貴大学等による自己評価書の作成や、評価の過程で得られた知見を含む。）はどの程度参考になりましたか。5段階（5：非常に参考となった ~ 3：どちらとも言えない ~ 1：全く参考とならなかった）でお答えください。

非常に どちらとも 全く参考と
参考となった 言えない ならなかった
(5) (3) (1)

記入例： 学長裁量経費による分野横断的な学内研究プロジェクトへの助成を開始した。	5	4	3	2	1	
研究実施体制、支援体制や改善のための体制に関すること						
	5	4	3	2	1	
	5	4	3	2	1	
	5	4	3	2	1	
研究活動のための諸施策・諸機能に関すること						
	5	4	3	2	1	
	5	4	3	2	1	
	5	4	3	2	1	
研究内容に関すること						
	5	4	3	2	1	
	5	4	3	2	1	
	5	4	3	2	1	

必要に応じて、枠の数を増やしたり、縦幅を大きくしたりしてください。

（本設問は、機構の評価がどの程度大学等の改善の参考になったかを調査するものであり、貴大学等の変更・改善の取組状況自体を追調査することを目的とするものではありません。）

(2) 貴大学等では、上記以外に機構による評価結果をこれまで何らかの方法で具体的に用いた例がありますか。以下の該当する番号に 印を付けてください。(複数回答可)

1 大学等の広報誌に評価結果を掲載した。	2 大学等のホームページで評価結果を公表した。
3 資金獲得のための申請書に記載した。	4 学生募集の際に用いた。
5 共同研究等の相手先企業を募集するパンフレット等に用いた。	
6 その他(具体的に)

5.2 評価による貴大学等における効果・影響について

評価を行ったことによって、以下のことを感じられましたか。5段階(5:強くそう思う ~ 3:どちらとも言えない ~ 1:全くそう思わない)でお答えください。答えられない場合は、空欄としてください。

強く
そう思う (5)

どちらとも
言えない (3)

全くそう
思わない (1)

組織の目的や目標を設定することの重要性が、自大学等内/部局内に浸透した。 -----

5	4	3	2	1	
5	4	3	2	1	

自己評価を行うことの重要性が、自大学等内/部局内に浸透した。 --

今回の評価対象の活動を、組織的に運営することの重要性が、自大学等内/部局内に浸透した。 -----

5	4	3	2	1	
5	4	3	2	1	
5	4	3	2	1	
5	4	3	2	1	

将来計画(中期計画を含む。)の策定に役立った。 -----

他大学等の評価報告書から優れた取組を参考にすることができた。 --

自大学等内/部局内で評価結果の内容が浸透した。 -----

【教育評価のみ】この評価が自大学等における教育活動の改善を促進した(あるいは今後すると予想される)と思う。 -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

【研究評価のみ】この評価が自大学等における研究活動の活性化を促進した(あるいは今後すると予想される)と思う。 -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

【教育・研究評価のみ】各教員の教育や研究に取り組む意識が向上した。 -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

【全学テーマのみ】この評価が自大学等の全体レベルでのマネジメントの改善を促進した(あるいは今後すると予想される)と思う。 -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

【全学テーマのみ】この評価が当該全学テーマ別評価に関する自大学等の活動の改善を促進した(あるいは今後すると予想される)と思う。

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

この評価が自大学等の個性的な取組を促進した(あるいは今後すると予想される)と思う。 -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

強く どちらとも 全くそう
 そう思う 言えない 思わない
 (5) (3) (1)

【全学テーマのみ】特定のテーマについて評価を行ったことによって、そのテーマに関わる活動を、他の活動に比べて過度に助長する影響が生じた。 -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

【研究評価のみ】教員の研究業績についての判定を行ったことによって、教育やその他の活動と比べて研究活動を過度に助長する影響が生じた。 -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

【教育評価のみ】評価を行ったことにより、教育における特定の活動を過度に助長する影響が生じた。 -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

自己点検・評価と比べて、改善に役立つ評価を得ることができた。 -- 評価報告書で具体的な改善方策が明確に提言されているほうが、望ましかった。 -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

法人化や組織統合・新設などの影響が大きく、評価結果の内容は反映しにくかった。 -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

自大学等の内部で、大学評価についての理解が増した。 -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

総じて、自大学等で評価にかけた費用に対して得られた効果に満足している。 -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

21 今回の評価対象の活動について、評価を一定期間ごとに行うことは必要だと思う。 -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

5.3 評価結果の社会における利用について

評価を行ったことによって、以下のことを感じられましたか。5段階（5：強くそう思う～3：どちらとも言えない～1：全くそう思わない）でお答えください。答えられない場合は、空欄としてください。

	強く そう思う (5)	どちらとも 言えない (3)	全くそう 思わない (1)			
自大学等の目的や状況を社会にわかりやすくアピールできた。-----	5	4	3	2	1	
自大学等の活動について国民の理解が増進されたと思う。-----	5	4	3	2	1	
【大学共同利用機関を除く】自大学の活動について高校生（将来に自大学に入学する可能性がある生徒）及びその保護者の理解が増進されたと思う。-----	5	4	3	2	1	
【大学共同利用機関を除く】自大学の大学院へ入学する可能性がある学生及びその保護者の理解が増進されたと思う。-----	5	4	3	2	1	
自大学等の活動について国及び地方自治体や公的機関からの理解が増進されたと思う。-----	5	4	3	2	1	
自大学等の活動について関連セクター（たとえば産業界、病院、非営利セクターなど）からの理解が増進されたと思う。-----	5	4	3	2	1	

6. 評価を担当してのご感想

評価作業を行っている際や行った後に、あなた自身は以下のことを感じられましたか。5段階（5：強くそう思う～3：どちらとも言えない～1：全くそう思わない）でお答えください。答えられない場合は、空欄としてください。

	強く そう思う (5)	どちらとも 言えない (3)	全くそう 思わない (1)			
機構の評価の目的を十分に理解して自己評価作業を行った。-----	5	4	3	2	1	
組織の活動の質の向上に有効な自己評価書の作成を心がけた。-----	5	4	3	2	1	
一般の人にもわかりやすい自己評価書の作成を心がけた。-----	5	4	3	2	1	
機構の評価で高い水準が得られるような自己評価書の作成を心がけた。-----	5	4	3	2	1	
自大学等から機構へ提出した最終的な自己評価書には満足している。-----	5	4	3	2	1	
評価を行うことによって、自己の組織に関して新たな知見が得られた。-----	5	4	3	2	1	
評価を行うことによって、自身の人的ネットワークが広がった。-----	5	4	3	2	1	
評価作業を行ったことに達成感を感じている。-----	5	4	3	2	1	

7. その他

その他ご意見等ございましたら、以下の欄に自由にご記入ください。(特にない場合は空欄で結構です。)

ご協力ありがとうございました。

大学等における評価の実施体制に関する調査

回答対象の 評価区分	全学テーマ別評価「教養教育」	大学等名 (評価時)	
---------------	----------------	---------------	--

(1) 貴大学等において評価を担当した組織がありましたか。あった場合には、以下にお答えください。

組織の名称 (例... 大学評価委員会)		組織の代表者の役職名 (例...副学長、 学部長)	
組織の位置づけ (該当する番号に 印)	構成人数 (概数)	自己評価書作成のための 会議開催回数(概数)	
1 常設の組織	教 員 人		
2 臨時の組織	事務職員 人	回	

委員会組織の場合のみ

(2) 上記組織のもとで、当該テーマ別評価に関する自己評価書の原案作成や根拠資料の収集などの具体的な作業を担当した組織(例えば下部委員会、ワーキンググループ、当該テーマを担当する委員会、事務組織等)がありましたか。あった場合には、以下にお答えください。(記入欄が足りない場合は、適宜記入欄を増やしてください。)

組織の名称 主な役割(該当する番号に 印、複数回答可)	組織の位置づけ (該当する番号に 印)	構成人数 (概数)	自己評価書作成のための会議 開催回数(概数)
1 自己評価作業の方針の検討 2 原案の執筆作業 3 原案についての議論 4 データ等の収集作業 5 その他()	1. 常設の組織 2. 臨時の組織	教 員 人 事務職員 人	回
1 自己評価作業の方針の検討 2 原案の執筆作業 3 原案についての議論 4 データ等の収集作業 5 その他()	1. 常設の組織 2. 臨時の組織	教 員 人 事務職員 人	回
1 自己評価作業の方針の検討 2 原案の執筆作業 3 原案についての議論 4 データ等の収集作業 5 その他()	1. 常設の組織 2. 臨時の組織	教 員 人 事務職員 人	回

委員会組織の場合のみ

(3) 自己評価書の原案を実際に執筆した人数と、その方々の役職をお答えください。

人数	教員()人 事務職員()人
役職	(例...評価担当副学長、評価センター長、総務課企画係長)

(4) 評価のために特別な予算措置を行いましたか。行った場合には、以下にお答えください。

資金名 (例...学長裁量経費)	用途 (例...データの整理など事務的作業の負担軽減のため、非常勤職員を1名雇用)

大学等における評価の実施体制に関する調査

回答対象の 評価区分	分野別教育評価 理学系	大学等名 (評価時)	
---------------	-------------	---------------	--

(1) 貴大学等において当該分野別評価を担当した組織がありましたか。あった場合には、以下にお答えください。

組織の名称 (例... 大学評価委員会、 学部評価委員会)	組織の代表者の役職名 (例... 学部長、 センター長、 研究科長)	
組織の位置づけ (該当する番号に 印)	構成人数 (概数)	自己評価書作成のための 会議開催回数(概数)
1. 常設の組織	教 員 人	回
2. 臨時の組織	事務職員 人	

委員会組織の場合のみ

(2) 当該分野別評価に関する自己評価書の原案作成や根拠資料の収集などの具体的な作業を担当した組織(例えば部局評価委員会、ワーキンググループ、事務組織等)がありましたか。あった場合には、以下にお答えください。(記入欄が足りない場合は、適宜記入欄を増やしてください。)

組織の名称 ----- 主な役割(該当する番号に 印、複数回答可)	組織の位置づけ (該当する番号 に 印)	構成人数 (概数)	自己評価書作 成のための会議 開催回数(概数)
1 自己評価作業の方針の検討 2 原案の執筆作業 3 原案についての議論 4 データ等の収集作業 5 その他()	1. 常設の組織 2. 臨時の組織	教 員 人 事務職員 人	回
1 自己評価作業の方針の検討 2 原案の執筆作業 3 原案についての議論 4 データ等の収集作業 5 その他()	1. 常設の組織 2. 臨時の組織	教 員 人 事務職員 人	回
1 自己評価作業の方針の検討 2 原案の執筆作業 3 原案についての議論 4 データ等の収集作業 5 その他()	1. 常設の組織 2. 臨時の組織	教 員 人 事務職員 人	回

委員会組織の場合のみ

(3) 自己評価書の原案を実際に執筆した人数と、その方々の役職をお答えください。

人数	教員()人 事務職員()人
役職	(例... 学部長、 学部評価委員会委員長、 学部 係長)

(4) 評価のために特別な予算措置を行いましたか。行った場合には、以下にお答えください。

資金名 (例...学長裁量経費)	用途 (例...データの整理など事務的作業の負担軽減のため、非常勤職員を1名雇用)